

# 岡山県感染症週報

2011 年 第 42 週 ( 10 月 17 日 ~ 10 月 23 日 )

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

## ◆2011 年 第 42 週 ( 10/17 ~ 10/23 ) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第 40 週 2 類感染症 結核 2 名 ( 幼児 女 1 名、60 代 男 1 名 ) の報告がありました。

### ■定点把握感染症の発生状況

- RS ウイルス感染症は患者数が増加し、10 月初旬から過去最も多い状態が継続しています。
- 流行性耳下腺炎は患者数が増加し、備中地域では感染症発生レベル 2 になりました。
- 手足口病は患者数が増加し、10 月下旬としては患者数が多くなりました。
- 水痘は、患者数が前週の 2 倍に増えました。
- インフルエンザは、患者報告がありませんでした。

【お知らせ】岡山県では今年 2 例目となる日本紅斑熱の発生がありました。(10 月 21 日報道発表)

1. **RSウイルス感染症**の定点あたり患者数は増加し ( 定点あたり 0.56 → 0.78 人 )、10 月初旬から過去最も多い状態が継続しています。  
RS ウイルス感染症については『**今週の注目感染症**』をご覧ください。
2. **流行性耳下腺炎**の定点あたり患者数は増加しました ( 定点あたり 0.93 → 1.41 人 )。倉敷市 ( 0.73 → 2.18 人 )、備中地域 ( 2.29 → 4.14 人 ) で患者数が増加し、備中地域では感染症発生レベル 2 になりました。倉敷市の小学校で流行性耳下腺炎による学級閉鎖が 1 校ありました。
3. **手足口病**の定点あたり患者数は増加し ( 定点あたり 0.83 → 1.54 人 )、10 月下旬としては過去 10 年に比べ患者数が多くなりました ( 第 42 週 過去 10 年平均 定点あたり 0.42 人 )。
4. **水痘**の定点あたり患者数は、前週の 2 倍に増えました ( 定点あたり 0.30 → 0.72 人 )。ウイルスによる急性感染症で、いわゆる『みずぼうそう』と呼ばれています。国立感染症研究所によると、患者は 11 月上旬頃から増加する傾向があるといわれており、今後の患者増加が懸念されます。
5. **インフルエンザ**は、岡山県では患者報告がありませんでした。  
全国集計第 41 週 (10/10 ~ 10/16) 速報値によると、全国では定点あたり 0.06 人、患者報告数は前週よりわずかに減少しました。患者発生はまだ散発的ですが、沖縄県、愛知県、佐賀県で定点あたり患者数が増えています。今シーズン ( 2011/9/5 ~ ) 第 42 週現在、全国で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が 21 件、B 型が 6 件、AH1 pdm09 型が 1 件報告されています。  
([国立感染症情報センター インフルエンザウイルス分離・検出速報 2011/2012 シーズン](#))
6. **日本紅斑熱**の発生が備前保健所管内でありました。岡山県での発生は 6 月に備前保健所東備支所管内で確認された症例につづき今年 2 例目、2009 年 10 月に県内で初めて日本紅斑熱が発生して以降 4 例目です。  
岡山県では [啓発パンフレット『日本紅斑熱に注意しよう!』](#)を作成し、注意を呼びかけています。  
【関連情報】
  - [リケッチアって知ってますか? \(国立感染症研究所 感染症情報センター\)](#)
  - [日本紅斑熱 \(国立感染症研究所 感染症情報センター\)](#)

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★★★	百日咳	➡	★
ヘルパンギーナ	➡	★	流行性耳下腺炎	➡	★★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	★★
マイコプラズマ肺炎	➡	★★	クラミジア肺炎	➡	

### 【記号の説明】

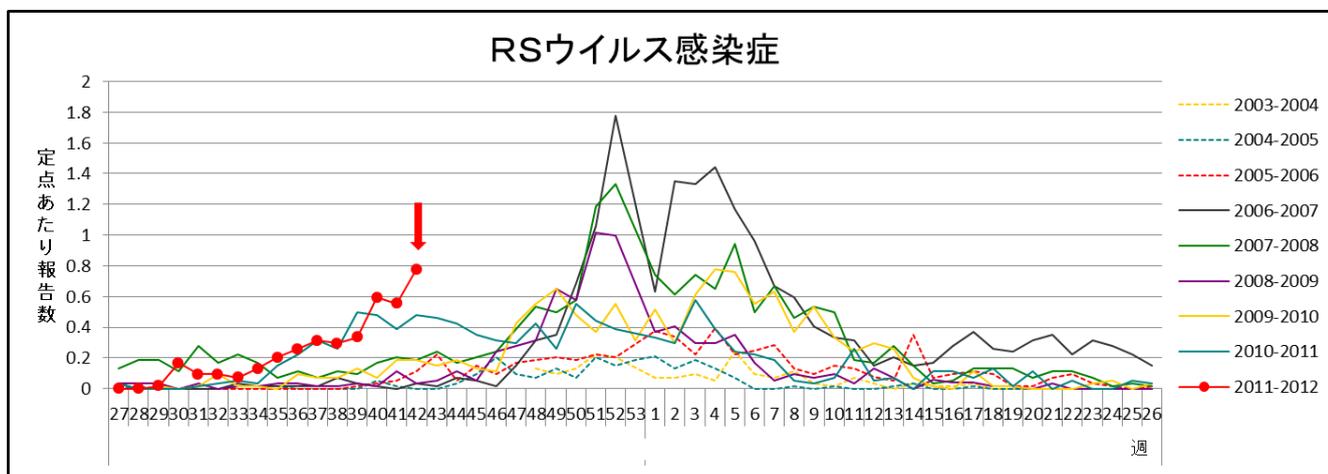
前週からの推移： ↓ 2倍以上の減少    ↘ 1.1～2倍未満の減少    ➡ 1.1未満の増減  
 ↗ 1.1～2倍未満の増加    ↑ 2倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし   ★僅か   ★★少し   ★★★やや多い   ★★★★多い   ★★★★★非常に多い

※定点当たり患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

## 今週の注目感染症

### RSウイルス感染症



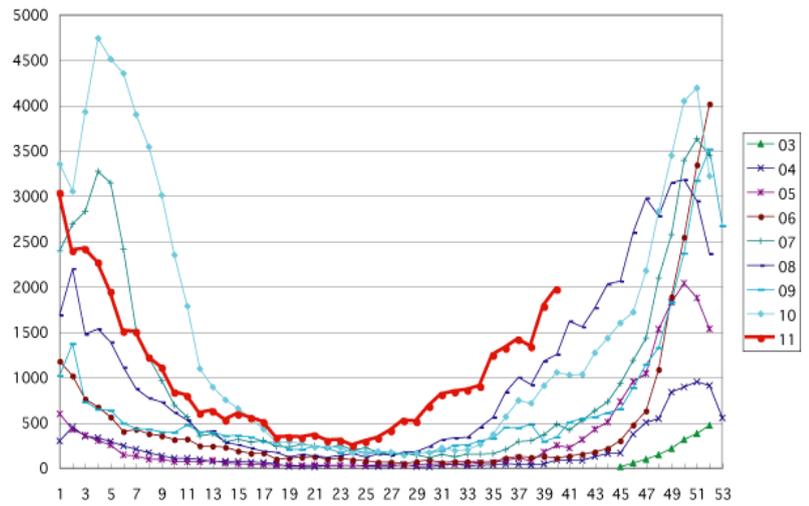
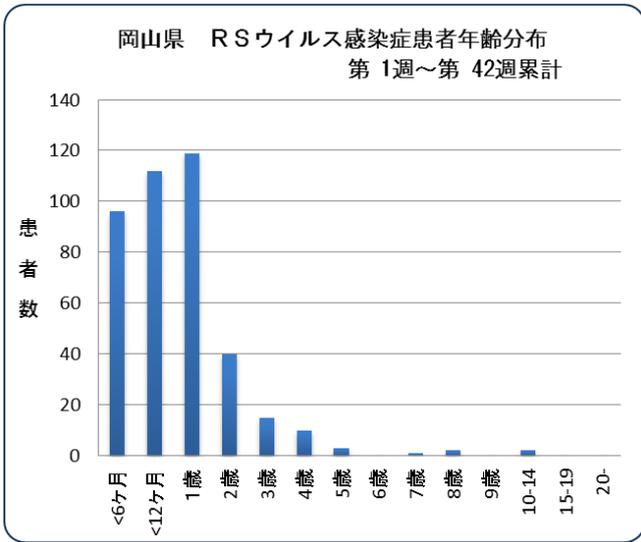
※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとして、グラフを作成しています。

RSウイルス感染症の定点あたり患者数は増加し（定点あたり0.56→0.78人）、データのある2004年以降の10月の患者数としては最も多い状態で第40週（10/3～）から推移しています。患者は8月下旬から増加が始まり、今週は過去平均の5.2倍、今年同様流行の早かった2010年の同時期に比べ1.6倍になりました。

岡山県の患者年齢分布は、1歳以下の乳幼児が全報告数の95%、全員が3歳以下でした。

国立感染症情報センターによると、全国の流行は例年であれば12月から翌年1月にピークを迎えますが、今年は夏頃（第25週）より患者の増加が見られ、これまでで最も多い状態が継続していると報告されています。

RSウイルス感染症は、重篤性や合併症から特に1歳以下の乳幼児において重要な感染症であり、今後冬に向けてさらに患者の増加が懸念されています。



全国のR Sウイルス感染症 過去との比較グラフ  
(国立感染症情報センター 第40週 週報より)

【R Sウイルス感染症とは】

R Sウイルス感染症は、冬（11月～1月）に乳幼児の肺炎・細気管支炎などを起こす急性呼吸器感染症で、乳幼児の肺炎の50%、細気管支炎の50～90%を占めるとされています。2歳までに、ほぼ100%の子供がこのウイルスの初感染を受けるといわれ、生涯にわたり感染を繰り返しますが、通常年齢が上がるにつれ重症化することが少なくなります。

流行の中心は1歳以下の乳幼児です。潜伏期は2～8日、発熱、鼻汁、咳などで発症し、通常8～15日で軽快します。しかし、初めてかかる乳幼児では、しばしば肺炎や細気管支炎を発症し、生後6ヶ月以下の乳幼児においては重症化することがあり、入院を要することもあります。1歳以下では無呼吸・脳炎など重大な合併症を伴うこともありますので特に注意が必要です。

感染力は強く、患者との密接な接触や、咳やくしゃみによるウイルスの飛沫により感染します。予防には手洗い・うがい、手指の消毒、マスクの着用が効果的です。保育園や幼稚園などでは集団発生することがありますので、感染予防に心がけてください。長引く咳や、呼吸時にゼーゼーと音がする喘鳴などが見られるときは、早めに医療機関を受診してください。また、感染した大人が気づかないうちに子供にうつしてしまうこともありますので、注意してください。

保健所別報告患者数 において **数字** は感染症マップにおいて レベル3  
**数字** は感染症マップにおいて レベル2 を示しています。

保健所別報告患者数 2011年 42週 (2011/10/17~2011/10/23)

2011年10月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	42	0.78	15	1.07	12	1.09	3	0.30	2	0.29	4	1.00	1	0.50	5	0.83
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	0.48	4	0.29	13	1.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	183	3.39	47	3.36	44	4.00	33	3.30	14	2.00	7	1.75	3	1.50	35	5.83
水痘	39	0.72	18	1.29	12	1.09	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	6	1.00
手足口病	83	1.54	22	1.57	6	0.55	27	2.70	6	0.86	-	-	7	3.50	15	2.50
伝染性紅斑	5	0.09	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	2	1.00	-	-
突発性発疹	38	0.70	25	1.79	7	0.64	3	0.30	-	-	-	-	-	-	3	0.50
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	0.15	1	0.07	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	-	-	3	0.50
流行性耳下腺炎	76	1.41	15	1.07	24	2.18	7	0.70	29	4.14	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	7	1.40	4	4.00	2	2.00	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 42週 (2011/10/17~2011/10/23)

2011年10月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	0.48	4	0.29	13	1.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	183	3.39	47	3.36	44	4.00	33	3.30	14	2.00	7	1.75	3	1.50	35	5.83
水痘	39	0.72	18	1.29	12	1.09	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	6	1.00
手足口病	83	1.54	22	1.57	6	0.55	27	2.70	6	0.86	-	-	7	3.50	15	2.50
伝染性紅斑	5	0.09	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	2	1.00	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	0.15	1	0.07	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	-	-	3	0.50
流行性耳下腺炎	76	1.41	15	1.07	24	2.18	7	0.70	29	4.14	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2011年 第42週 2011/10/17~2011/10/23 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	42	11	13	16	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	1	-	1	2	5	4	2	5	2	1	-	2	1	-
感染性胃腸炎	183	3	19	23	24	22	8	16	10	9	4	5	24	2	14
水痘	39	-	3	12	5	6	2	2	2	1	2	2	1	-	1
手足口病	83	1	5	28	18	15	7	4	1	3	-	-	-	-	1
伝染性紅斑	5	-	-	1	-	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-
突発性発疹	38	-	17	19	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	-	-	6	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	76	-	-	5	4	20	8	9	9	4	6	5	4	-	2

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	7	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

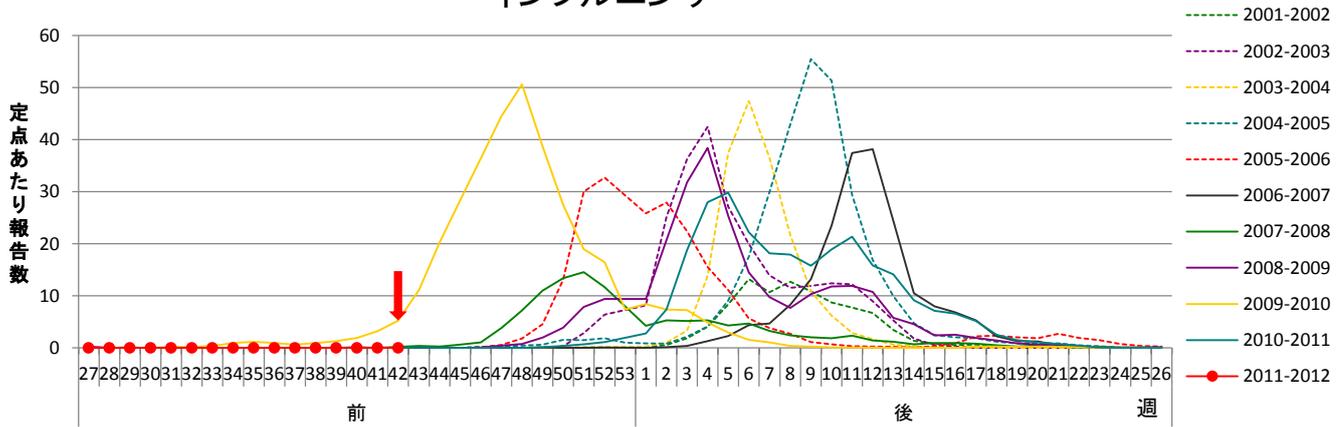
( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

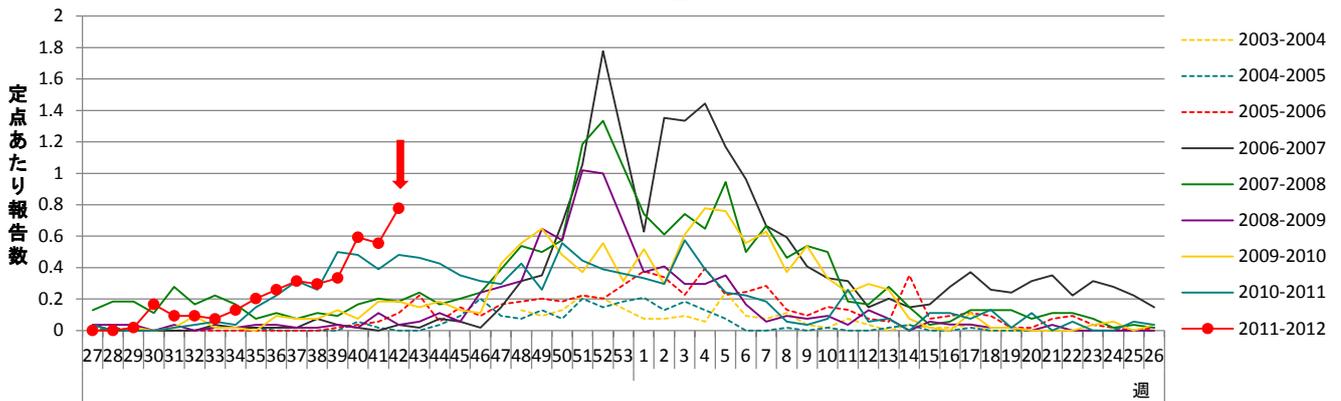
2011年 42週

分類	疾病名	2011			疾病名	2011			疾病名	2011		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	399	352	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	60	66
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	1	デング熱	-	-	7	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	1	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	16	19	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	10	13	ウイルス性肝炎*3	-	7	7	急性脳炎*4	-	3	1
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	1
	後天性免疫不全症候群	-	12	22	ジアルジア症	-	2	5	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	9	9	破傷風	-	2	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	3	風しん	-	1	2
	麻しん	-	4	3		-	-	-		-	-	-

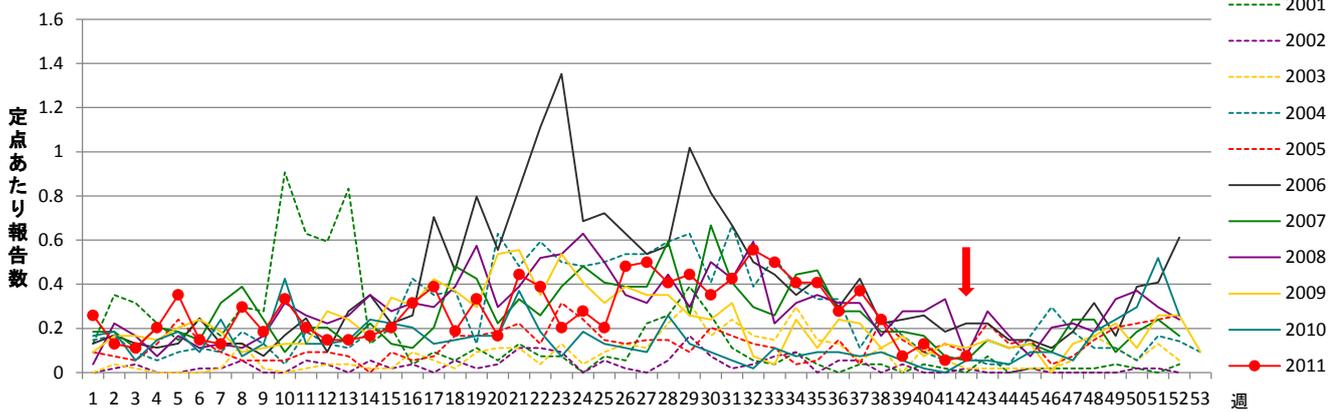
### インフルエンザ



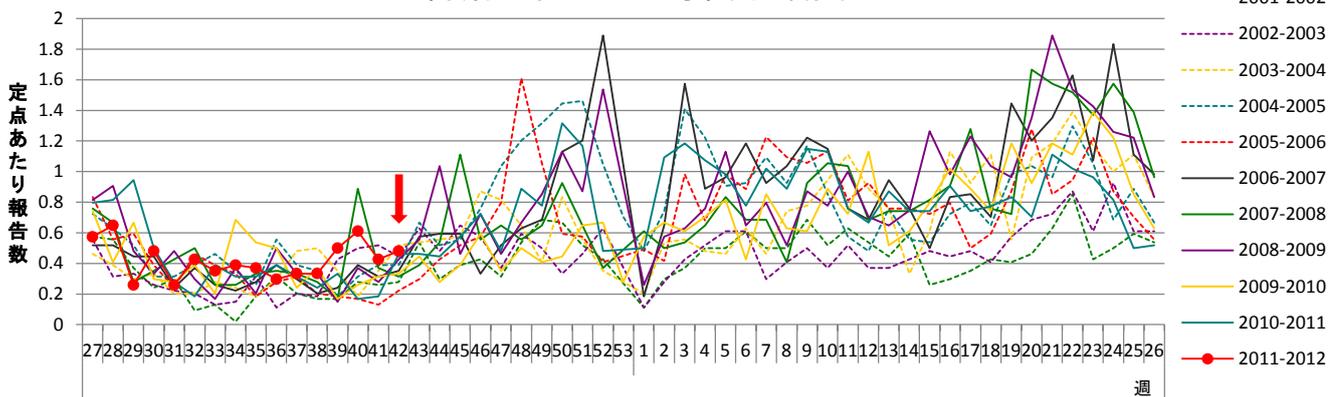
### RSウイルス感染症



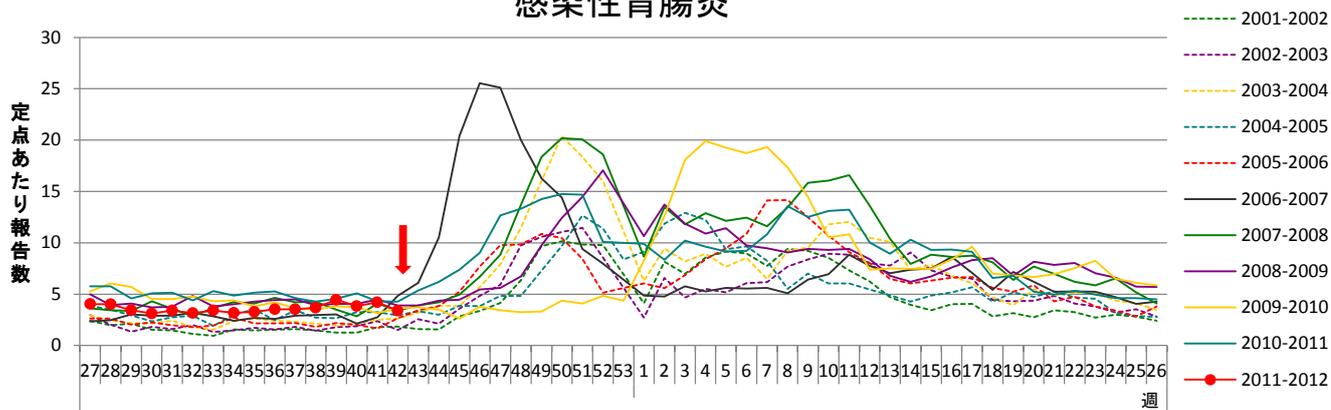
### 咽頭結膜熱



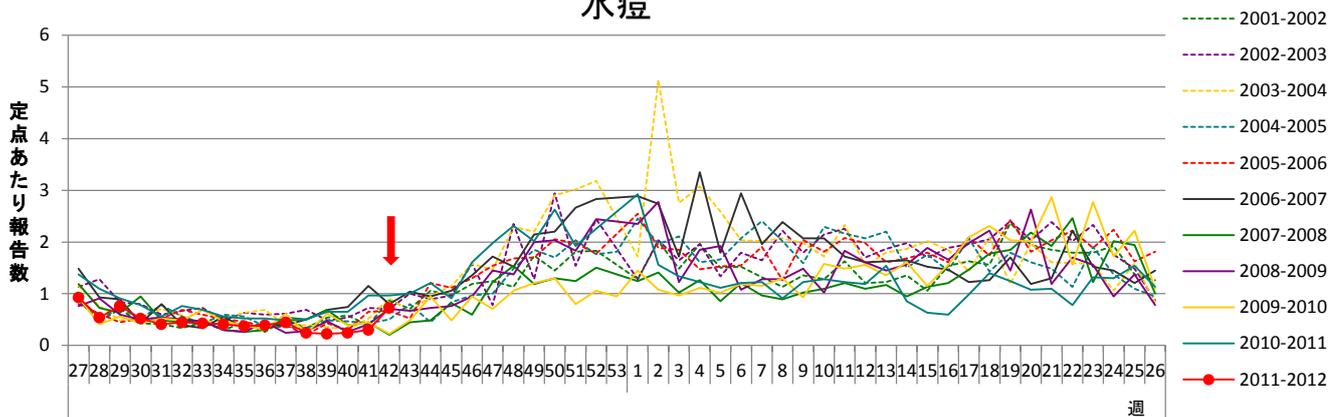
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



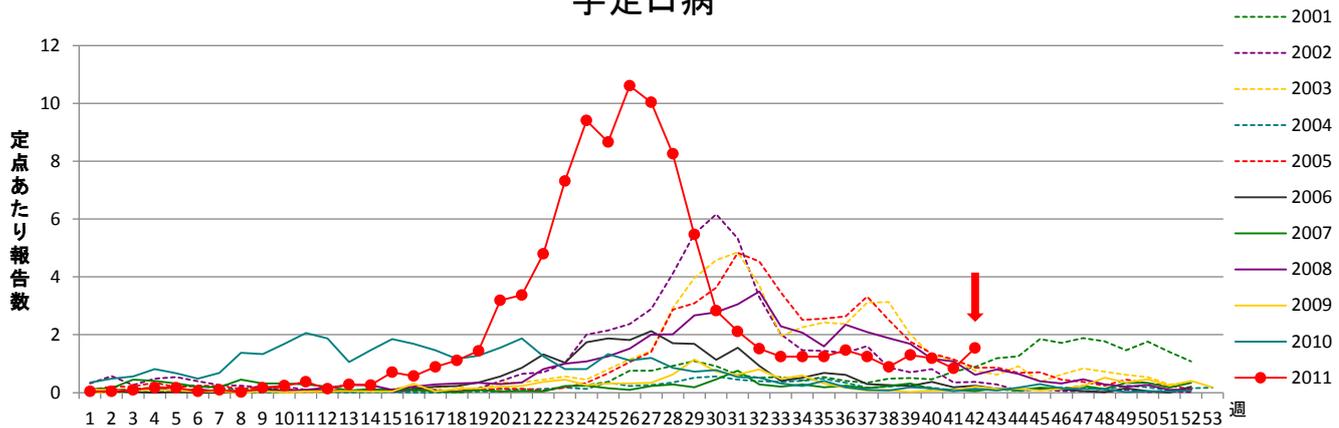
### 感染性胃腸炎



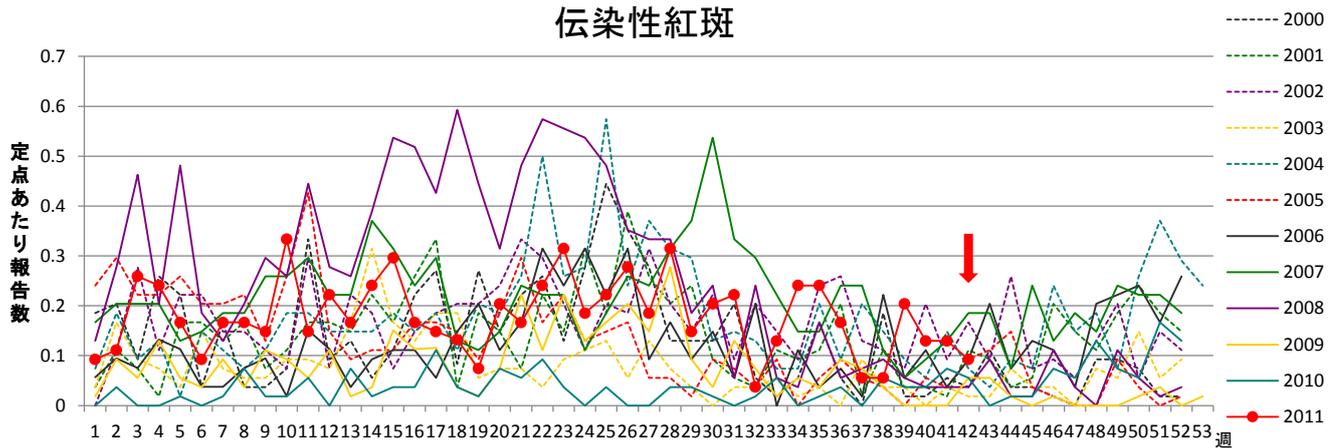
### 水痘



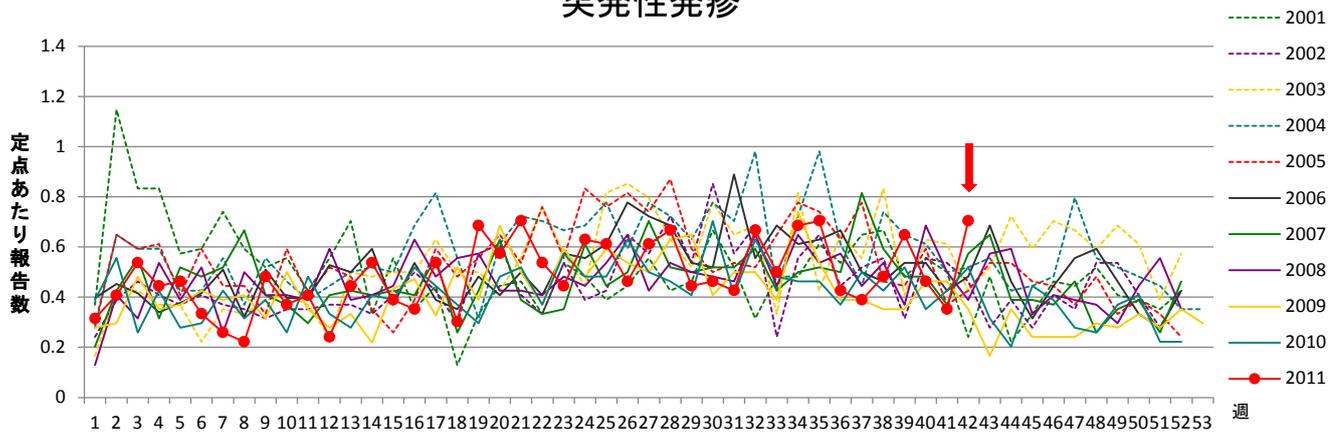
### 手足口病



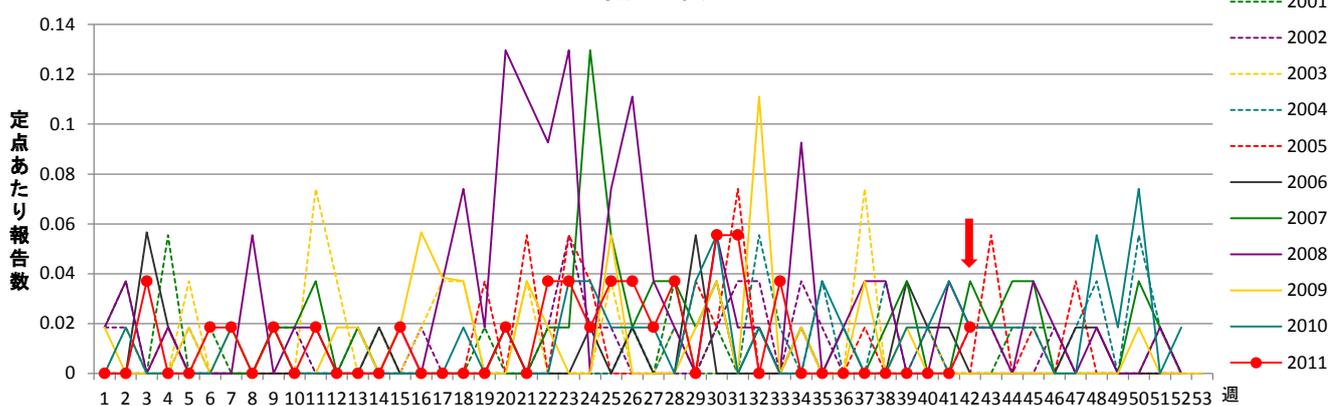
### 伝染性紅斑



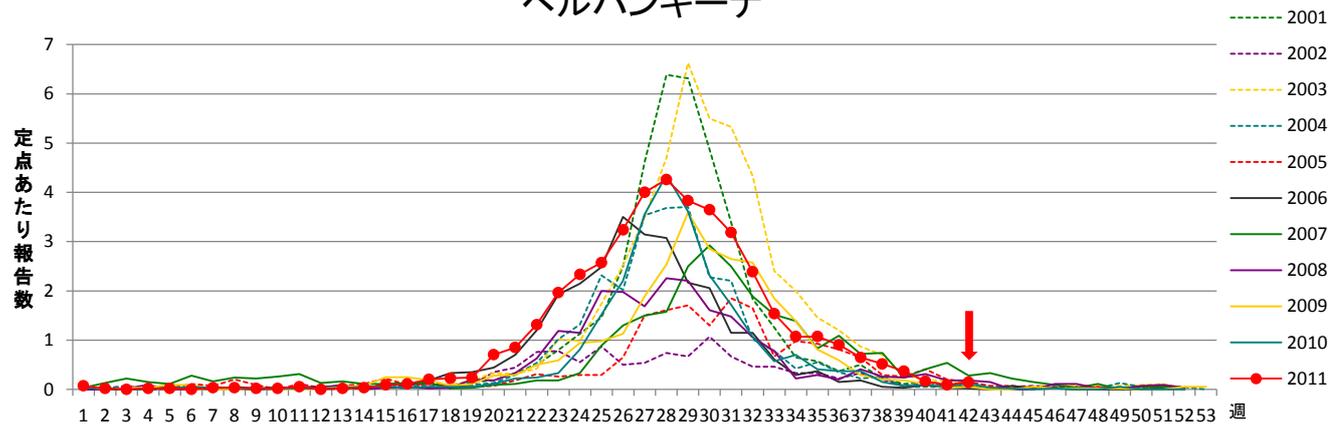
### 突発性発疹



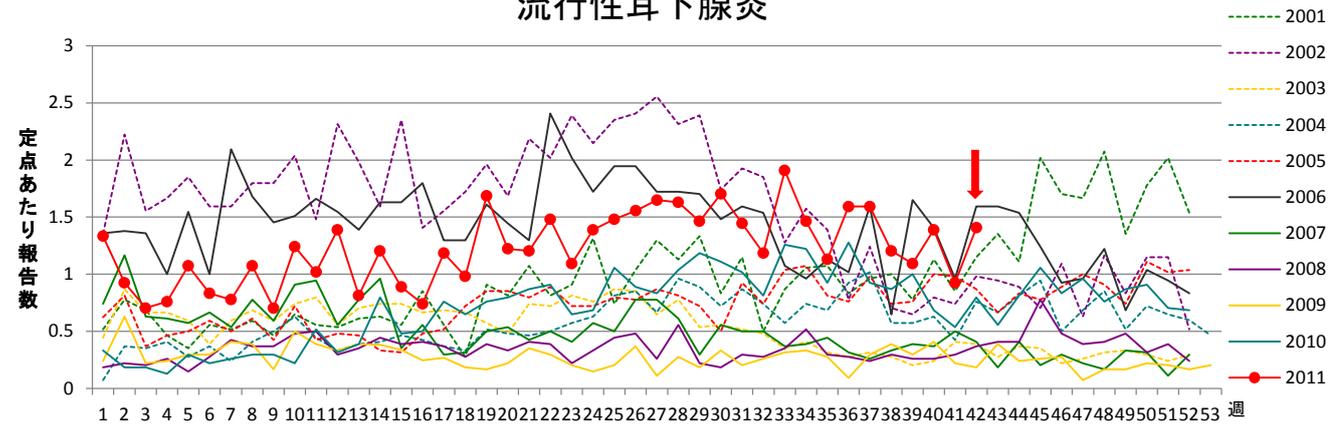
### 百日咳



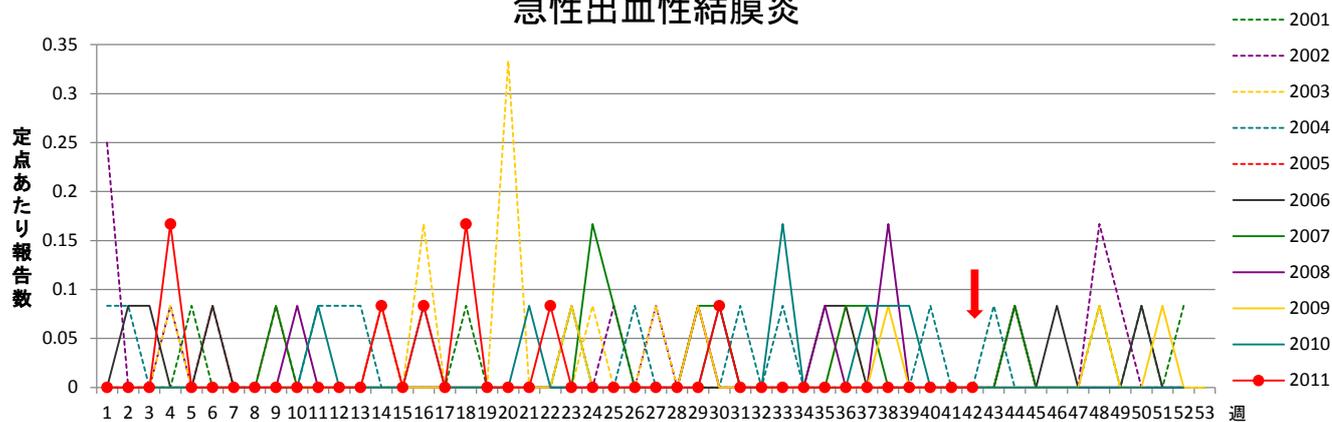
### ヘルパンギーナ



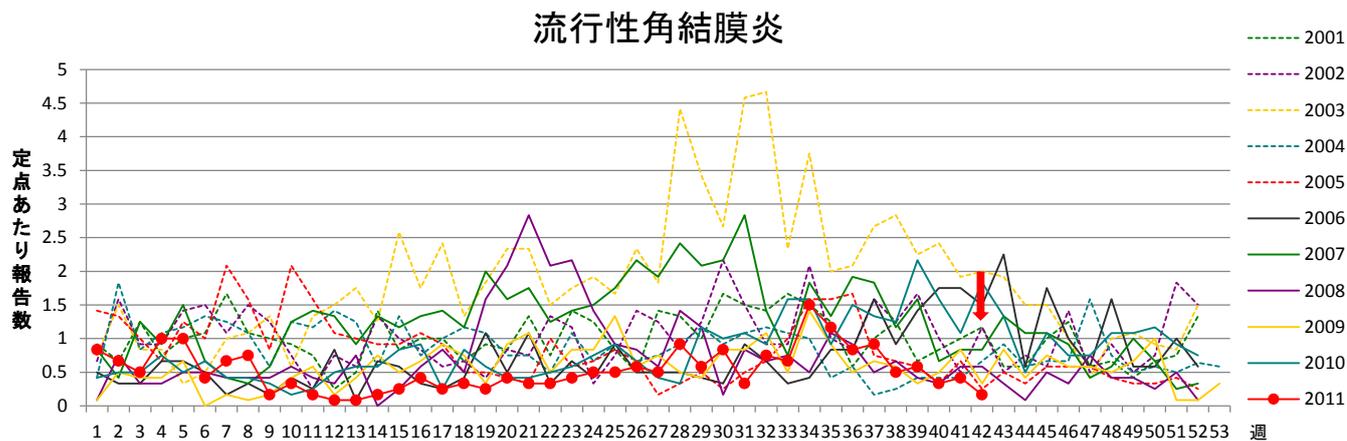
### 流行性耳下腺炎



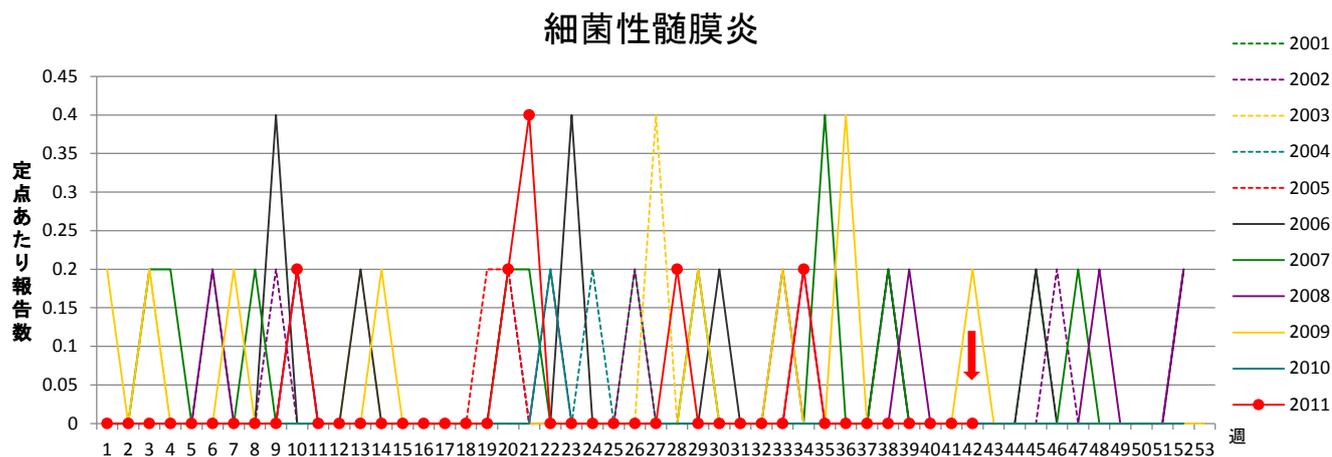
### 急性出血性結膜炎



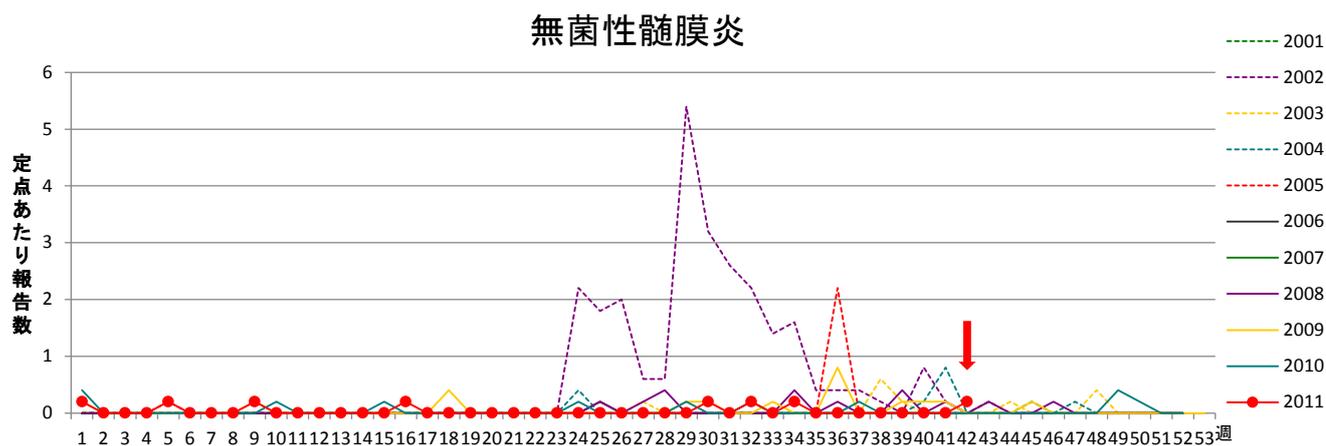
### 流行性角結膜炎



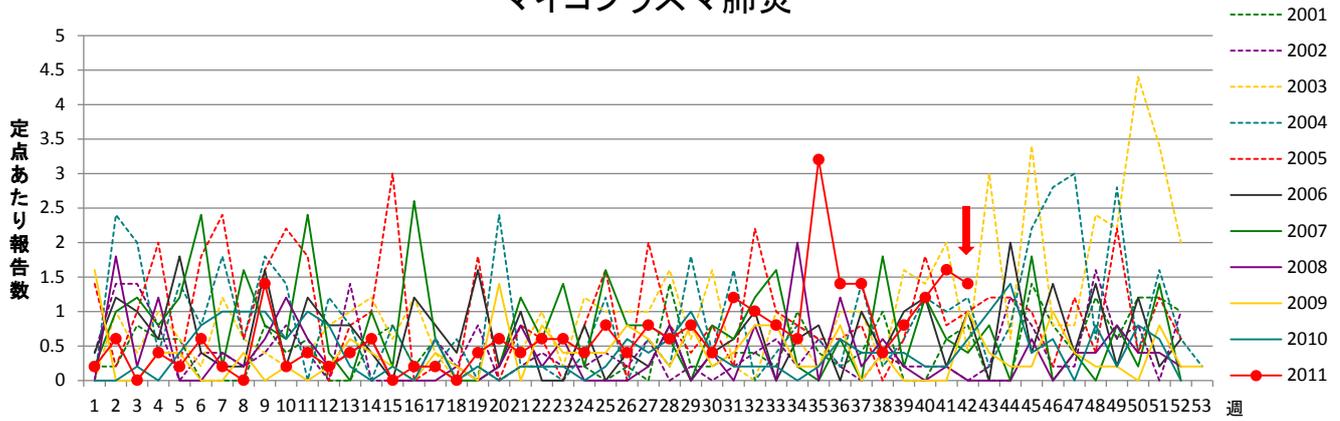
### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎

